

あとがき

創刊 100 周年を迎えて

植田茂紀*



気づいている方は少ないかもしれません、「電気製鋼」は1925年（大正14年）1月15日に創刊されたため、2025年は100年目の節目の年です。しかし、発行巻数としては第96巻になります。これは戦争の影響で、1944年（昭和19年）から1949年（昭和24年）まで休刊を余儀なくされたことによります。今回、100周年の記念特集号とするか議論となりましたが、第80巻の際に記念特集を組んでいることから、4年後の第100巻を記念特集号とすることにいたしました。楽しみにお待ちいただければと思います。

先日ラジオを聞いていて知りましたが、1925年はNHKのラジオ放送が始まった年であり、「電気製鋼」と同じ年に誕生したとのことでした。その後、声や音楽を一般大衆に届ける方法は、ラジオからテレビ、衛星放送、インターネット、スマートフォンへと革新を遂げてきました。

特殊鋼も同様に、時代とともに進化を続けています。「電気製鋼」は、その開発した成果を公開することで、当社の技術力PRやユーザー様の新商品創出に貢献してまいりました。さらに、同業他社と切磋琢磨する研鑽にもなり、鉄鋼業界全体の底上げにも寄与してきたと考えております。

私自身も、一研究者として「電気製鋼」には、30年前の入社以来かなりお世話になっています。誤解を恐れずに申し上げますと、掲載論文が古いものであるほど、そのレベルはお世辞にも決して高いとは言えません。しかし、十分とは言えない分析機器や限られた情報数の中で、先輩方が苦労して知恵を絞ってきた様子を感じ取ることができます。それでも貪欲に研究開発に邁進し、多くの礎を築いてくださったおかげで、我々現役世代へ、新たなブレークスルーをするにはどのような点に着目すべきか、ヒントを与えてくれます。100年前、未来の我々に価値ある贈り物を残すことを始めた先輩方には、感謝してもしきれません。

我々も、次の100年後に向かって本誌の伝統を継承し、産業の変化に呼応した特殊鋼および機能材料の発展に精進していきたいと思います。

* 大同特殊鋼(株)技術開発研究所長(技報「電気製鋼」編集発行人)